

金沢市における時差出勤の社会実験導入に関する考察

金沢大学工学部 正会員 高山純一
 金沢大学工学部 ○ 谷 英賢
 金沢市交通対策課 木村 実
 金沢市交通対策課 坂井祐一
 (株)計画情報研究所 松本佳子

1. はじめに

現在の金沢市の交通状況は、郊外に点在する居住地から都心部へ向かう自動車が発生しているため、慢性的な交通渋滞が起きている。これにより所要時間の増大、渋滞によるイライラの発生などで肉体的にも精神的にもドライバーに疲労を感じさせる状況にある。

快適な通勤環境を提供する対策として、道路に対するハード的対策が困難な状況にある現在、最近ではソフト的対策としての交通需要管理政策が注目されている。金沢市では、その施策の一つとして時差出勤の導入を平成6年度より検討を行ってきた。

今回、ある問屋団地を対象に行った企業及び従業員の試行参加意向の事前調査について結果を報告する。

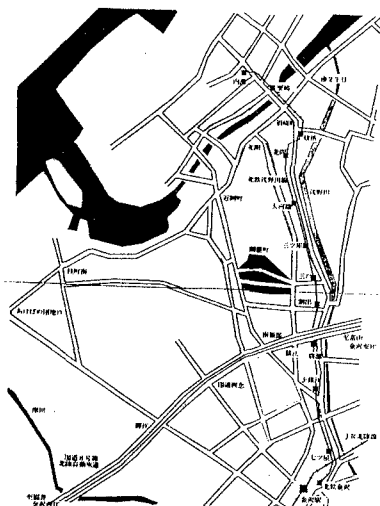


図-1 問屋団地周辺地図

2. アンケート調査の概要

2-1 従業員に対する時差出勤意向調査

調査目的：従業員に対して、社員の通勤状況及び時差出勤に対するニーズをアンケート調査により把握する。

配布期間：平成8年8月下旬郵送により配布、9月下旬回収。

調査対象：問屋団地内企業社員(129社、計3,148人)

回収数：118社、2,378人

回収率：75.5% (企業回収率91.5%)

2-2 経営者に対する意向調査

調査目的：企業経営者の時差出勤に対する意向をアンケート調査により把握する。

配布期間：平成8年9月下旬配布、10月上旬回収。

調査対象：問屋団地内企業経営者(129社)

回収数：90社

回収率：69.8%

2-3 問屋団地周辺における交通量事前調査

調査日時：平成8年9月30日午前7:00～10:00

調査内容：問屋団地方向交通量、渋滞長を10分おき、問屋団地までの所要時間を1時間おきに調査。

3. 試行実験に対する事前調査の結果

3-1 従業員に対する時差出勤意向調査の結果

始業時刻は8:30分始業が最も多く、8:00、9:00を含めると全体の97.6%を占めている。代表交通手段はほとんどの人が自家用車で通勤している。年齢別では、30歳未満が35%と最も多く、次いで40歳台の順となっている。図-2に従業員の始業時刻を示す。

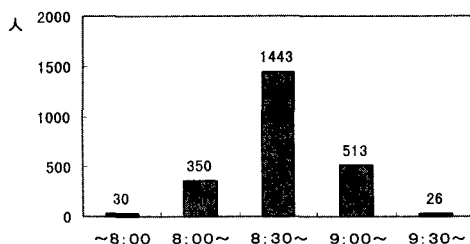


図-2 始業時刻

時差出勤への関心は、関心のある人と無い人がだいたい半分かつとなっている。始業時刻別では、7:00～

9:00 始業と多少渋滞の影響を受けている人の関心が高くなっている。また、年齢別に見ると50歳以上の高齢になるにつれ関心が薄くなるという結果となった。関心の有無に関するグラフを図-3に示す。

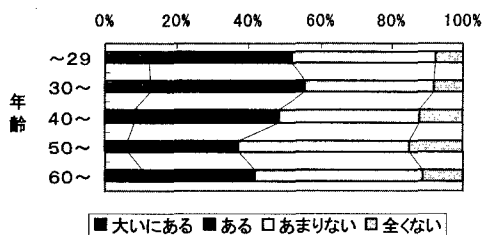


図-3 年齢別関心の有無

時差出勤導入意向については、「導入すべき」「導入した方が良い」の意見は約25%、「試しにやってみたい」が47%との結果となった。年齢別に見ると、30歳未満の人が「試しにやってみたい」という意向が高く、高齢になるにつれてその割合は低くなる傾向にある。また、ラッシュ時の影響を受ける人の意向が比較的高い結果となった。

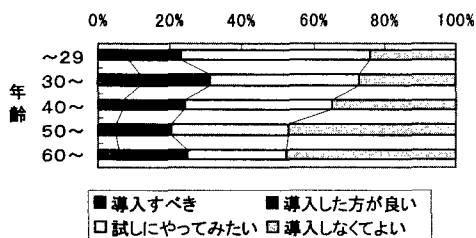


図-4 年齢別時差出勤導入意向

3-2 時差出勤に対する経営者意向調査の結果

企業経営者に対する意向調査はメリット、デメリット

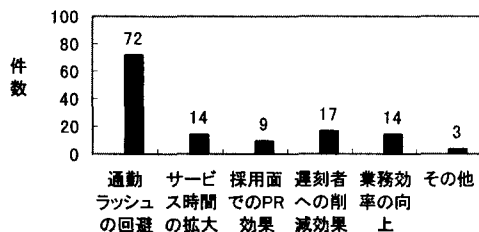


図-5 時差出勤のメリット

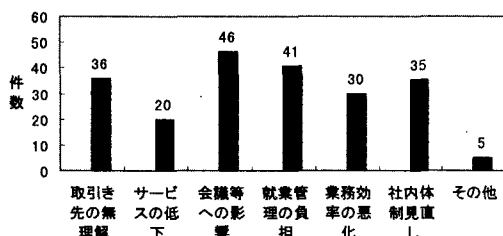


図-6 時差出勤のデメリット

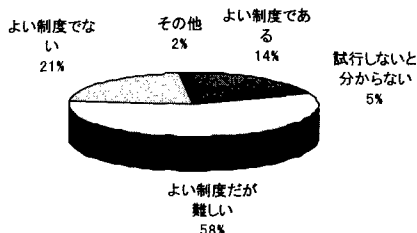


図-7 時差出勤に対する意向

トを複数回答で選択していただいた。メリットとして最も多かった回答は「通勤ラッシュの回避」で、デメリットとしては「会議への影響」が挙げられている。また時差出勤への意向では、「良い制度であるが難しい」(58%)「良い制度でない」(21%)という否定的な回答が多く、合わせて約79%を占めている。

3-3 問屋団地周辺における事前交通量調査の結果

交通量調査では、問屋団地周辺の道路は7:30~8:50までの交通量が多い。これは、問屋団地の企業の多くが8:00~9:00の間に始業時刻となっているため、通勤者の集中が起るものと考えられる。

また、全ての調査において、都心部のある南部方向よりも北部方向のピーク時の渋滞が激しい。これは、都心部方向の道路は比較的交通容量が大きくなっているのに対し、北部方向はそれほど大きくないためと思われる。

4. まとめと今後の課題

今回行った調査は施策導入に伴う試行事前調査であったが、この調査において従業員と企業経営者との時差出勤に対する期待が大きく異なっていた。従業員側では通勤時間の短縮など肯定的な意見が多くあったのに対し、経営者側では協調性や会議への影響等の観点から否定的な意見が目についた。

時差出勤の社会実験を導入した際、実験に対する事後調査として上記のような問題がクリアできるかについて、また金沢の地域特性を考慮して積雪期の時差出勤制度が行えないかについて調査していきたい。

〈参考文献〉

- 1)金沢市都市政策部交通対策課「時差出勤等導入調査」研究会資料 平成8年3月
- 2)金沢市都市政策部交通対策課「金沢市総合交通計画実施推進協議会」説明資料 平成8年8月
- 3)(株)計画情報研究所「時差出勤事前調査」平成8年11月
- 4)山口哲夫、高山純一、木村実、坂井祐一「金沢市における時差出勤導入の試行実験」交通工学研究会報告集 No16 PP221~224, 平成8年11月